

■ 総合診療 ～漢方で限界を超えていけ！～

在宅医療で知っている便利な漢方薬

土倉 潤一郎（土倉内科循環器クリニック）

在宅医療では要介護状態の高齢者が中心となり、自ずと漢方薬も飲みづらくなることが多い。また、患者や介護者が困っている症状に対して、比較的速やかに対応する必要があるため、治療に速効性や確実性が求められる場面も少なくない。そのような中で、「ここには漢方薬が有用！」という内容を紹介したい。

地域診療における漢方治療

齊藤 奈津美（東北大学病院総合地域医療教育支援部・漢方内科）

地域診療、とりわけプライマリ・ケアの現場では、日常生活やライフサイクルの中で直面する症状や疾患に対応していく必要がある。漢方薬はこれらの診療で役立つ場面が多いとされる。地域診療における漢方薬の傾向と役割について明らかにする。

大学病院総合診療科と漢方

守屋 純二（金沢医科大学 総合内科学）

大学での漢方医学教育はコアカリキュラム改訂、教育プログラムの相次ぐ変更などで試行錯誤してきたが、より良い方向について模索している最中である。過去の座学一方向性から少数グループへ変成した成果について報告する。

大学病院総合診療科から紹介された入院症例

吉永 亮（飯塚病院 東洋医学センター 漢方診療科）

2021年1月から2年間に大学病院総合診療科から入院での漢方治療目的で紹介となった患者の漢方治療を紹介する。大学病院総合診療科で精査加療を行いつつ外来で漢方治療を行っても改善しない症例であるが、入院での漢方治療は有用で、特に強い裏寒に対する治療が多かった。コロナ禍を反映して、COVID-19罹患後症状やコロナワクチン接種後の体調不良の症例が増加している。